



レポート作成が容易に OnCommand Insight

NetApp
April 01, 2024

This PDF was generated from <https://docs.netapp.com/ja-jp/oncommand-insight/reporting/navigating-to-the-pre-defined-oncommand-insight-reports-and-dashboards.html> on April 01, 2024. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

レポート作成が容易に	1
事前定義済みのOnCommand Insight レポートへの移動	1
Storage Manager Dashboardで実行できる操作	2
事前定義済みのレポートを使用した回答に関する一般的な質問への	5
Cognosを使用したレポートの作成11	8

レポート作成が容易に

OnCommand Insight Reportingポータルから事前定義済みのレポートを生成したり、他のユーザにEメールで送信したり、変更したりできます。複数のレポートを使用して、デバイス、ビジネスエンティティ、または階層でフィルタリングできます。このレポートツールは、IBM Cognos をベースとしたツールで、さまざまなデータ表示オプションが用意されています。

- OnCommand Insight の事前定義済みレポートには、インベントリ、ストレージ容量、チャージバック、パフォーマンス、ストレージ効率、クラウドのコストデータを削減できます。これらの事前定義済みレポートを変更して、変更内容を保存できます。

使用可能なレポートデータは、次のようないくつかの要素によって制御されます。

- ロールごとに定義されるOnCommand Insight Reportingポータルにログインします。
- レポートのデータを格納するOnCommand InsightData Warehouseのセットアップ。

HTML、PDF、CSV、XMLなどのさまざまな形式でレポートを生成できます。Excelなどです。

OnCommand Insight では、ユーザをビジネスユニットに関連付けることで、Reportingでマルチテナンシーを実現できます。この機能を使用すると、管理者は、ユーザーまたは所属先の属性に従ってデータまたはレポートを分離できます。



Cognosバージョン11.1.2以降では、レポートURLは「安定している」とはみなされず、変更される場合があります。ブックマークされたレポートURLがある場合、これらのブックマークは失敗する可能性があります。詳細については、次のサイトを参照してください。

<http://queryvision.com/ibm-analytics-11-x-urls-they-are-a-changing/>



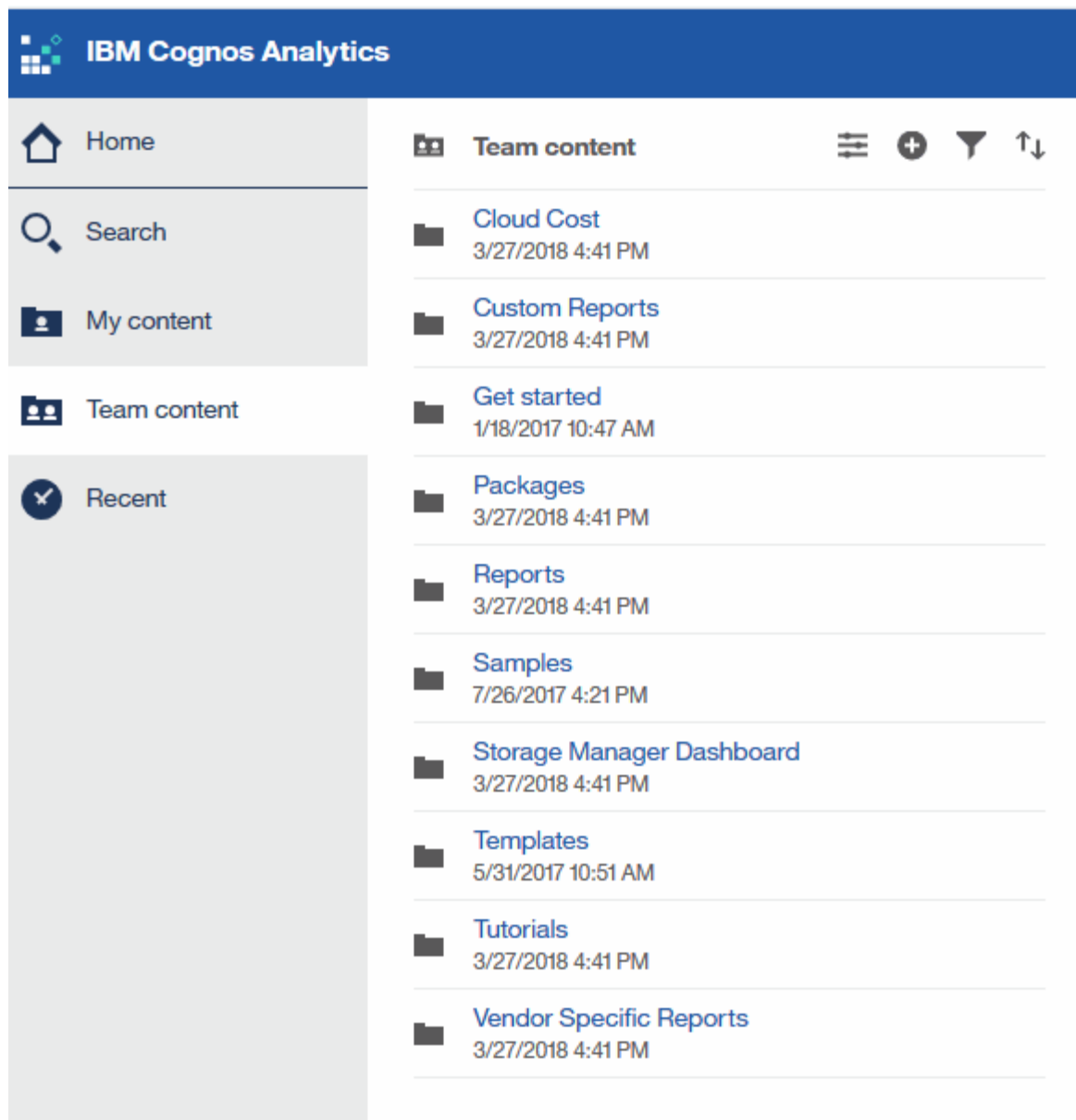
OnCommand Insight では、新しいデータモジュール機能を使用しないかぎり、IBM Cognosのパッケージを使用して作成されたダッシュボードはサポートされません。

事前定義済みのOnCommand Insight レポートへの移動

Reportingポータルを開くと、OnCommand Insight レポートで必要な情報のタイプを選択するには、[チーム]コンテンツフォルダが出発点になります。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、*[チームコンテンツ]*をクリックし、使用する情報カテゴリを選択します。



2. [*Reports] をクリックして、事前定義済みレポートにアクセスします。
3. レポートの作成方法については、[はじめに]、[サンプル]、*[チュートリアル]*をクリックしてください。

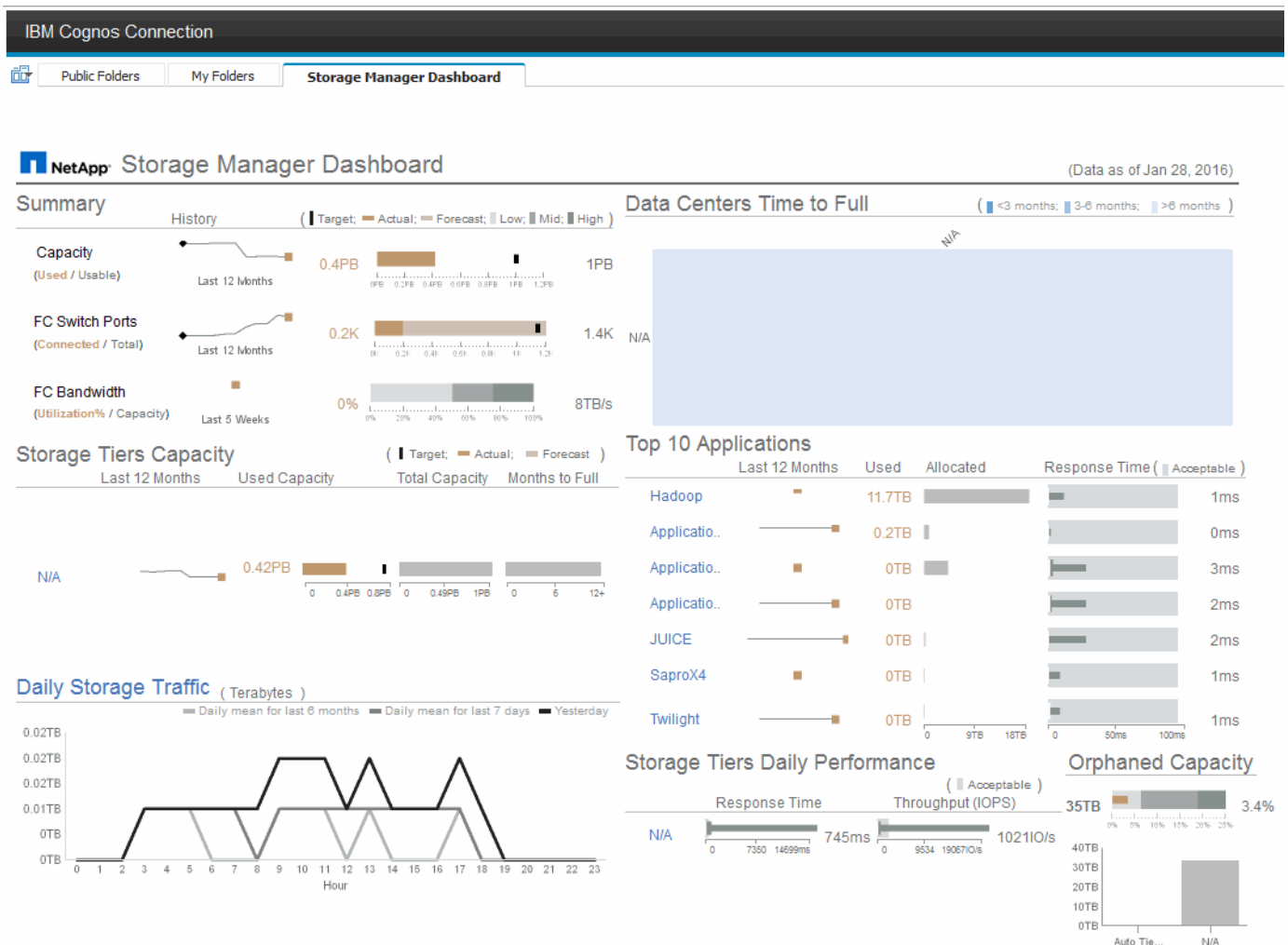
Storage Manager Dashboardで実行できる操作

ストレージサービスの日々の管理には、Storage Manager のダッシュボードを使用できます。

Storage Manager Dashboard では、一定期間のリソース使用量をまとめて表示し、許容範囲および過去何日間かのアクティビティと比較することができます。ストレージサービスの主要なパフォーマンス指標だけが表示されるため、データセンターの管理方法についての決定を下すことができます。

このダッシュボードは7つのコンポーネントで構成され、ストレージ環境の特定の要素に関するコンテキスト情報が表示されます。ストレージサービスの要素をドリルダウンして、最も関心のあるセクションについて詳細な分析を実施できます。

まとめ



このコンポーネントには、使用済みのストレージ容量と使用可能なストレージ容量、スイッチポートの総数と接続されているスイッチポートの数、接続されているスイッチポートの合計利用率と総帯域幅、および一定期間にわたるこれらのトレンドが表示されます。実際の利用率を低、中、高の範囲と比較して表示することができます。これにより、Insightの予測と目的の実際の利用率を、ターゲットに基づいて比較し、比較することができます。容量とスイッチポートについては、このターゲットを設定できます。予測は、現在の増加率と設定した日付による外挿によって算出されます。将来使用日に基づいて予測された使用済み容量がターゲットを超えると、容量の横にアラート（赤い丸）が表示されます。

ストレージ階層容量

このコンポーネントには、使用済みの階層容量と階層に割り当てられた容量が表示され、12 カ月間での使用済み容量の増減と容量の上限に到達するまでの月数が表示されます。実際の使用状況、Insightによる使用状況の予測、および設定可能な容量のターゲットが表示されます。将来使用日に基づいて予測された使用済み容量がターゲットを超えると、階層の横にアラート（赤い丸）が表示されます。

いずれかの階層をクリックすると、Storage Pools Capacity and Performance Details レポートを表示できます。このレポートには、空き容量と使用済み容量、上限に到達するまでの日数、および選択した階層内のすべてのプールのパフォーマンス（IOPS と応答時間）の詳細が表示されます。また、このレポート内のいずれかのストレージまたはストレージプール名をクリックすると、リソースの現在の状態をまとめたアセットページを表示できます。

日次ストレージトラフィック

このコンポーネントには、環境のパフォーマンス、増加率、変更率、潜在的な問題が過去 6 カ月間と比較してどのように発生しているかが表示されます。また、平均トラフィックと過去 7 日間および前日のトラフィックの比較も表示されます。周期的（過去 7 日間）な変化と季節的（過去 6 カ月間）な変化の両方を示す情報が提供されるため、インフラのパフォーマンスについての異常を可視化できます。

タイトル（[毎日のストレージトラフィック]）をクリックすると、[Storage Traffic Details] レポートが表示されます。このレポートには、各ストレージシステムについて、前日のストレージトラフィックの 1 時間ごとのヒートマップが表示されます。レポート内のいずれかのストレージ名をクリックすると、リソースの現在の状態をまとめたアセットページが表示されます。

データセンターがフルになるまでの時間

このコンポーネントには、Insight で予測される増加率に基づいて、すべてのデータセンターとすべての階層が表示され、ストレージの各階層について各データセンターに残っている容量が表示されます。階層の容量レベルは青で表示され、色が暗くなるほど、その場所の階層が上限に到達するまでの時間が少なくなります。

階層のセクションをクリックすると、Storage Pools Days to Full Details レポートを表示できます。このレポートには、合計容量、空き容量、選択した階層とデータセンター内のすべてのプールが上限に到達するまでの日数が表示されます。レポート内のいずれかのストレージまたはストレージプール名をクリックすると、リソースの現在の状態をまとめたアセットページが表示されます。

上位 10 個のアプリケーション

このコンポーネントには、使用済み容量に基づく上位 10 個のアプリケーションが表示されます。この領域には、階層によるデータの割り当てに関係なく、インフラの現在の使用済み容量と共有状況が表示されます。過去 7 日間のユーザエクスペリエンスを可視化して、応答時間が許容可能な（または許容できない）範囲にあるかどうかを確認できます。

また、アプリケーションがパフォーマンスのサービスレベル目標（SLO）を満たしているかどうかを示すトレンドも表示されます。前週の最小応答時間、最初の四分位数、3 番目の四分位数、および最大応答時間を表示できます。中央値は、許容可能な SLO に対して表示され、設定可能です。応答時間の中央値が許容可能な SLO 範囲に含まれていない場合は、アプリケーションの横にアラート（赤い丸）が表示されます。アプリケーションをクリックすると、リソースの現在の状態をまとめたアセットページを表示できます。

ストレージ階層の日次パフォーマンス

このコンポーネントには、過去 7 日間の応答時間と IOPS についての階層のパフォーマンスの概要が表示されます。このパフォーマンスは、ユーザが設定可能な SLO と比較したものです。これにより、階層の統合、階層から提供されるワークロードの再調整、または特定の階層に関する問題の特定の機会があるかどうかを確認できます。応答時間の中央値または IOPS の中央値が許容可能な SLO 範囲に含まれていない場合は、階層の横にアラート（赤い丸）が表示されます。

階層名をクリックすると、Storage Pools Capacity and Performance Details レポートを表示できます。このレポートには、空き容量と使用済み容量、上限に到達するまでの日数、および選択した階層内のすべてのプールのパフォーマンス（IOPS と応答時間）の詳細が表示されます。レポート内のいずれかのストレージまたはストレージプールをクリックすると、リソースの現在の状態をまとめたアセットページが表示されます。

孤立容量

このコンポーネントには、孤立容量の合計と階層別の孤立容量が表示されます。使用可能な総容量の許容範囲

と比較され、孤立している実際の容量が表示されます。孤立容量には、設定に起因するものとパフォーマンスに起因するものがあります。_設定によって孤立したストレージ_ホストにストレージが割り当てられている状況を示します。ただし、設定が正しく実行されていないため、ホストはストレージにアクセスできません。_orphaned by performance_isは、ホストからアクセスするようにストレージが正しく設定されている場合です。ただし、ストレージトラフィックが発生していません。

水平の積み上げ棒は許容範囲を示します。グレーの色が暗くなるほど、許容できない状況になります。実際の状況は、孤立している実際の容量を示す細いブロンズバーとともに表示されます。

階層をクリックすると、Orphaned Storage Details レポートを表示できます。このレポートには、選択した階層について、設定およびパフォーマンスが原因で孤立していると特定されたすべてのボリュームが表示されます。このレポート内のいずれかのストレージ、ストレージプール、またはボリュームをクリックすると、リソースの現在の状態をまとめたアセットページが表示されます。

事前定義済みのレポートを使用した回答に関する一般的な質問への

OnCommand Insight には、レポート作成に関する一般的な要件に対応する事前定義済みのレポートが用意されており、関係者がストレージインフラに関する十分な情報に基づいて意思決定を行うために必要な重要な分析情報を得ることができます

以下の事前定義されたレポートは、チームコンテンツ>*レポート*または*チームコンテンツ*>*ベンダー固有のレポート*で使用できます。

NetApp Storage Automation Storeでは、新しいバージョンのレポートを入手できる場合があります。Automation Storeで定期的にレポートを確認する必要があります。

- *AWSクラウドのコストデータ*

クラウドコストレポートにはすべての資産がまとめて表示されるため、環境内で動的に拡張されるクラウドベースサービスとオンプレミスサービスの使用状況とコストを追跡、分析、最適化できます。

このレポートでは、インフラとコストの相関関係を示し、明確で実用的なレポートを提供して、集中的なキャパシティプランニングと廃棄物の検出を通じて適切なサイジングを確実に行うことができます。

- アプリケーションサービスレベルの容量とパフォーマンス

Application Service Level Capacity and Performance レポートには、アプリケーションの概要が表示されます。この情報は、キャパシティプランニングや移行計画に使用できます。

- チャージバック

Chargeback レポートには、ストレージ容量のチャージバックとアカウントビリティの情報がホスト、アプリケーション、およびビジネスエンティティ別に表示され、現在のデータと履歴データの両方が含まれます。

データが二重に収集されないようにするために、ESX サーバを対象から除外し、VM のみを監視してください。

このレポートの最新版は、NetApp Storage Automation Store から入手できます。

- データソース

Data Sources レポートには、サイトにインストールされているすべてのデータソース、データソースのステータス（success / failure）、およびステータスメッセージが表示されます。このレポートには、データソースのどこで問題が発生したかに関する情報が記載されています。データソースが正しく機能しないと、Insightでのレポートの精度と製品の一般的な操作性に影響します。

- * ESXとVMのパフォーマンス*

ESX と VM のパフォーマンス比較レポートには、ESX サーバと VM の平均および最大の IOPS、スループット、レイテンシ、利用率が表示されます。データが二重に収集されないようにするために、ESX サーバを対象から除外し、VM のみを監視してください。

このレポートの最新版は、NetApp Storage Automation Store から入手できます。

- ファブリックの概要

Fabric Summary レポートには、ポート数、ファームウェアバージョン、ライセンスステータスなど、スイッチとスイッチの情報が表示されます。このレポートには NPV スイッチポートは含まれません。

- *ホストHBA *

Host HBAs レポートには、環境内のホストの概要と、HBA のベンダー、モデル、ファームウェアバージョン、および HBA が接続されているスイッチのファームウェアレベルが表示されます。このレポートを使用して、スイッチまたは HBA のファームウェアのアップグレードを計画する際にファームウェアの互換性を分析できます。

- ホストのサービスレベルの容量とパフォーマンス

Host Service Level Capacity and Performance レポートには、ブロック専用アプリケーションのホスト別のストレージ利用率の概要が表示されます。

- ホストの概要

Host Summary レポートには、選択した各ホストのストレージ利用率の概要と、Fibre Channel ホストおよび iSCSI ホストの情報が表示されます。このレポートを使用して、ポートとパス、Fibre Channel と iSCSI の容量、および違反数を比較できます。

- ライセンスの詳細

License Details レポートには、すべてのサイトで、ライセンスが付与されているリソースの数が表示されます。このレポートには、すべてのサイトでの実際のライセンス数の合計も表示されます。この合計には、複数のサーバで管理されるストレージアレイが重複してカウントされることがあります。

- マッピングされているがマスクされていないボリューム

Mapped but not Masked Volumes レポートには、LUN は特定のホストにマッピングされているが、そのホストに対してマスクされていないボリュームが表示されます。このようなボリュームは、マスクが解除された、運用を終了した LUN である可能性があります。マスクされていないボリュームにはどのホストからもアクセスできるため、データが破損しやすくなります。

- ネットアップの容量とパフォーマンス

NetApp Capacity and Performance レポートには、割り当て済み容量、使用済み容量、コミット済み容量のグローバルデータ、および容量のトレンドとパフォーマンスデータが表示されます。

- * OCIスコアカード*

OCIスコアカードレポートには、OnCommand Insight によって検出されたすべてのアセットの概要と一般的なステータスが表示されます。ステータスは、緑色、黄色、赤色のフラグで示されます。

- 緑は正常な状態を示します
- 黄色は、環境内に潜在的な問題があることを示します
- 赤は、注意が必要な問題 を示します。レポートのすべてのフィールドは、レポートに付属のデータディクショナリに記載されています。

- ストレージの概要

Storage Summary レポートには、raw、割り当て済み、ストレージプール、およびボリュームについて、使用済み容量と未使用の容量のデータの概要が表示されます。このレポートは、検出されたすべてのストレージの概要を示します。

このレポートの新しいバージョンは、NetApp Storage Automation Storeで入手できます。

- * VMの容量とパフォーマンス*

仮想マシン（VM）環境とその使用容量が表示されます。VM の電源がオフになっている場合など、一部のデータを表示するには、VM ツールを有効にする必要があります。

- * VMパス*

VM Paths レポートは、仮想マシンが実行されているホスト、どのホストがどの共有ボリュームにアクセスしているか、アクティブなアクセスパスが何であるか、および容量の割り当てと使用量がどのようなものであるかについて、データストアの容量データとパフォーマンスの指標を提供します。

- シンプル別のHDS容量

HDS Capacity by Thin Pool レポートには、シンプロビジョニングされたストレージプールで使用可能な容量が表示されます。

- アグリゲート別のネットアップ容量

NetApp Capacity by Aggregate レポートには、アグリゲートの合計 raw スペース、合計スペース、使用済みスペース、使用可能なスペース、およびコミット済みスペースが表示されます。

- シック・アレイ別のSymmetrix容量

Symmetrix Capacity by Thick Array レポートには、raw 容量、使用可能な容量、空き容量、マッピングされた容量、マスクされた容量が表示されます。 合計空き容量を確認します。

- シン・プール別のSymmetrix容量

Symmetrix Capacity by Thin Pool レポートには、raw 容量、使用可能な容量、使用済み容量、空き容量、使用済みの割合が表示されます。 サブスクライブ済み容量およびサブスクリプション率：

- アレイ別のXIV容量

XIV Capacity by Array レポートには、アレイの使用済み容量と未使用の容量が表示されます。

- プール別のXIV容量

XIV Capacity by Pool レポートには、ストレージプールの使用済み容量と未使用の容量が表示されます。

Cognosを使用したレポートの作成11

Cognos 11を使用したレポートの作成は、以前のバージョンのCognosとは異なります。この手順を使用して、事前定義されたOnCommand Insight レポートを使用してレポートを作成します。

このタスクについて

次の手順に従って、複数のデータセンター内のストレージおよびストレージプールの物理容量に関する簡単なレポートを生成します。

手順


1. ツールバーで、をクリックします 

2. [レポート (Report)] をクリックします

3. >[空白]*をクリックします

4. >*クールブルー>*[OK]*をクリックします

[ソース] タブと [データ] タブが表示されます

5. >*をクリックします 

6. ファイルを開くダイアログで、チームコンテンツ>*パッケージ*をクリックします

利用可能なパッケージのリストが表示されます。

7. >[開く]*をクリックします

8. をクリックします 

レポートで使用するスタイルが表示されます。

9. [List] をクリックします

リストとクエリに適切な名前を追加します

10. [OK] をクリックします。

11. [物理容量]*を展開します

12. 最下位レベルの* Data Center *に展開します

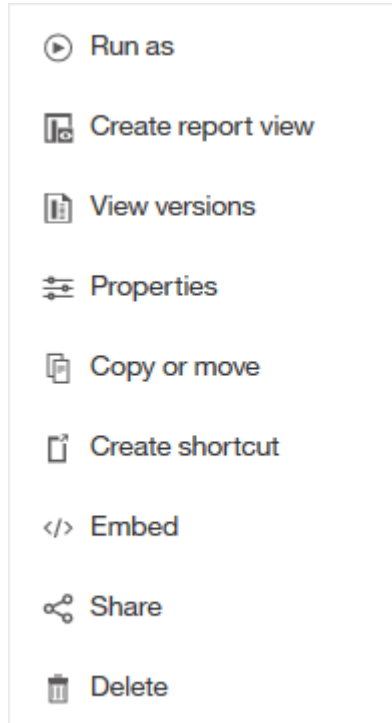
13. ドラッグします  Data Center をクリックします。

14. [容量 (MB)]*を展開します

15. [Capacity (MB)]*[Reporting]パレットにドラッグします。

16. [Used Capacity (MB)]*をレポートパレットにドラッグします。

17.
















をクリックして、レポートを実行します
択します。

をクリックし、出力タイプを選

結果

次のようなレポートが作成されます。

	Data Center	Capacity (MB)	Used Capacity (MB)
	Asia	122,070,096.00	45,708,105.00
	BLR	100,709,506.00	54,982,204.00
	Boulder	22,883,450.00	12,011,075.00
	DC01	1,707,024,715.00	1,407,609,686.00
	DC02	732,370,688.00	732,370,688.00
	DC03	314,598,162.00	65,448,975.00
	DC04	573,573,884.00	282,645,615.00
	DC05	89,245,458.00	62,145,011.00
	DC06	19,455,433,799.00	11,283,487,744.00
	DC08	100,709,506.00	44,950,171.00
	DC10	112,916,718.00	43,346,818.00
	DC14	23,565,735,054.00	17,357,431,924.00
	DC56	137,549,084.00	10,657,793.00
	Europe	743,942,208.00	240,369,325.00
	HIO	9,823,036,853.00	4,216,750,338.00
	London	0.00	0.00
	N/A	9,049,939,023.00	5,887,911,992.00
	RTP	12,386,326,262.00	5,638,948,477.00
	SAC	9,269,642,330.00	6,197,549,437.00
	 Top  Page up  Page down  Bottom		

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。